

# 最大級の「NAB Show Express 2020」がオンラインで開催

神谷 直亮

4月18日から22日まで米ネバダ州ラスベガスで開催予定であった全米放送事業者協会（NAB）主催の「NAB Show 2020」が、新型コロナウイルス感染症の拡大で中止となり、代わって登場したのが5月13日、14日の2日間にわたって行われた「NAB Show Express 2020」である。「Keeping Our Community Connected」を旗印に掲げたこのオンラインによるコンテンツ配信は、「NAB Show Experience Channel」「NAB Show Experience 2 Channel」の2チャンネルを使って行われ成功した。さらに、Facebook、YouTube、Twitterによるライブストリーミングも実施している。NABが5月20日に行った報道発表によれば、世界各国からの総接続者数は40,000人に達したという。

今回のストリーミングイベントのハイライトは、ゴードン・スミス NAB 会長の基

調講演で、その後スミス会長と米連邦通信委員会（FCC）のアジット・パイ委員長との対談が注目を集めた。

スミス会長は、ラスベガスのコンベンション会場でのオープニング・セレモニーの晴れ舞台に立てないのを残念がりながら、ワシントンの NAB オフィスからリモートで基調講演を行った。

同会長は、まず、「NAB Show Express 2020」に参加する人々への感謝を表明した後、「このやり方は、私たちにとってニューフォーマットであり、新しい経験といえる。来年の NAB Show 2021 を待てない人々へのデジタルショーの一環として提供することにした」と述べた。また、現状認識として「これまで2か月の間に放送業界の関係者と話したところでは、社員の給料を払うために借入れをしたり、信頼のおける優秀な人材をやむなく解雇したり、中には局自体を閉鎖せざるを得ない事態に追い込まれるといった悲しい事例に向き合わざるを得なかった」と述べ、「このような厳しい環境下でも放送事業者は耐え抜いている。NAB は、耐えに耐えている大多数の放送事業者と共に肩を組んで歩んでいる」と、強い支援態勢を表明した。

次いで、アメリカにおける最初のラジオ局 KDKA が 1920 年にピッツバーグで開局してから、今年で 100 周年になることに触れ「今年の NAB Show 2020 は、これを記念して盛大に開かれるはずであった。しかるに新型コロナウイルスの感染拡大で

NAB Show Express 2020 に方針を変えざるを得なかったのは皮肉としか言えない。このような困難な状況下でも、全米各地の放送事業者は、日々最新の情報を伝え、コミュニティの安全維持に努め、地元の経済活動維持のために奮闘している。放送事業者は、地元希望を与え、人々とのつながりを維持する活動に一生懸命だ」と、1918 年のスペイン風邪の後遺症をものともせず立ち上がった KDKA と、今年の新型コロナウイルス感染症拡大に直面して戦い続けている全米の放送事業者の類似性を指摘しながら奮闘ぶりを称賛した。

さらに、「放送事業者は、小規模ビジネス経営者や地元のレストランなどを支援している。失業者に手を差し伸べたり、飢えている人々に食べ物を提供したりすることで前代未聞の努力を積み重ねている。また、学校とパートナーを組んで、バーチャルクラスルームへの移行を支援することも忘れていない」と具体的な事例を挙げた。

最後に、スミス会長は、アメリカの著名な詩人、セオドア・レトキー（Theodore Roethke）の「In a dark time, the eye begins to see」を引用し「アメリカの放送事業者は、コミュニティを第一に考え新型コロナウイルスの感染という暗闇から抜け出して、家族や友人をつなぐ役割を果たし、慰安と希望をもたらしている」と述べて締めくくった。

スミス NAB 会長とアジット・パイ（Ajit



写真1 NABは、「Keeping Our Community Connected」を掲げ、オンラインで「NAB Show Express 2020」を開催した。



写真2 その後 NAB は、世界各国から 40,000 人が「NAB Show Express 2020」にアクセスしたと報じた。



写真3 NABのゴードン・スミス会長は、オフィスから基調講演を行って注目を集めた。（出典、NAB Show Express 2020のオンライン画面）

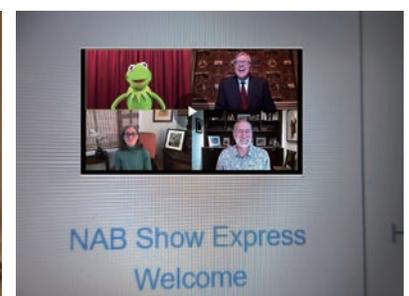


写真4 「NAB Show Express 2020」の「Welcome」画面でカーミット（左上）、スミス NAB 会長（右上）、ブライアン・ハンソン（右下）とリサ・ハンソン（左下）が紹介された。（出典：nabshow.com/express）

Pai) FCC 委員長との対談は、上述した基調講演の後に行われた。パイ委員長は、3月12日からテレワーク中とのことで、自宅の書斎で対応するバーチャル対談形式を取っていた。

同委員長は、まず「テレワークでも業務効率は落ちていない。仕事の合間のわずかな時間を見つけて、子供と自転車を走らせたり、かくれんぼ (Hide-and-Seek) をしたりすることでむしろ人間的な生活が送れている」と近況を語った。

次いで、放送業界に対しては、「手数料減免、支払い期限延長、オークションの延期など、当面必要な策はすでに施した。さらに支援が必要な分野があれば率直に伝えてほしい。FCC は、米国がしっかりとつながり続けるための施策を打ち出すことを惜しまない」と、非常に好意的なコメントを発した。また、「規制面に関して放送事業者がこれからも明かりをともし続けるために必要な変更や免除項目などがあれば、FCC は喜んで対応する体制を整えている。さらに、FCC は、新型コロナウイルスという厳しい状況下でも、全米の放送業界が活力に満ちた状態で踏み留まることを望む。たとえ小規模な市場であっても縮み込み生き延びることができないなどということが決してないように配慮していく」と、FCC としての決意を述べた。恐らく、この背景にあるのは、小規模なラジオ局が広告収入減で特に苦しんでいるという現状認識があると思われる。

最後に、スミス会長がパイ委員長に任期が来たら個人的に何をしたいと考えているのかと問うと「まだ、FCC の委員長として力走中で、次の役割にまで考えが及んでいない」と真剣な表情で答えていた。間をおかずに「ホワイトハウスに入るのはいかが」とスミス会長が水を向けると、パイ委員長はまんざらでもないような顔で苦笑していた。すぐにスミス会長は、「パイ委員長が大統領になれば、私は喜んで副大統領になる」と持ち上げて終了した。

ちなみにパイ委員長は、2017年1月にドナルド・トランプ大統領により任命され、任期は2021年6月までとなっている。

話は変わって、NAB 恒例のテレビ、ラジオ業界の功労者や事業者をたたえる5つの

賞の受賞者が、今年は次のように決まった。まず、特別功労賞は、繰り人形師の大御所、映画製作者、TV プロデューサーとして知られる故ジム・ヘンソン氏 (1936 ~ 1999) に贈られた。繰り人形を意味する「Marionette」と指人形を指す「Puppet」を融合させたマペット (Muppet) を創作して一世を風靡した功績が認められたものである。彼が創作したマペットの有名なキャラクターとしては、カーミット、ゴンゾ、ロルフ、ウォルター、ミス・ビギーなどが挙げられる。特に、カエルのキャラクター「カーミット」がよく知られている。ヘンソン氏は、すでに没しているのに、実際に受賞に臨んだのは、彼の後を継いだブライアン・ヘンソンとリサ・ヘンソンの両氏ということになった。

次いで、ラジオの分野を代表する第33回「Cristal Radio Award」は、オクラホマ州タルサのKRMG-FM、ワシントン州シアトルのKRWM-FM、ユタ州ソールト・レイク・シティのKUBL-FMなど、10のラジオ局に授与された。評価の基準は、ローカルコミュニティへの過去一年間の貢献度である。

さらに、「Digital Leadership Award」は、EntercomのChief Digital Officerとして知られるJ. D. Crowley氏が受賞した。デジタル・メディア・プラットフォームの構築に貢献した人に贈られる賞で、今回は、EntercomのPodcastビジネスへの取り組みとオーディオ・ストリーミング・サービスでの躍進が評価された。

4つ目のカテゴリーとなる「Radio Engineering Achievement Award」は、Nautel社のJeff Weltonに、「Television Engineering Achievement Award」は、American Tower社のJim Stenbergに授与された。両氏ともデジタル・ラジオ・デジタルテレビに関する技術的な論文

や本をたくさん執筆しており、業界への貢献度が高く評価されたと言える。

最後に、もう一つの重要な「NAB Crystal Heritage Award」は、KCVM-FMが獲得した。同FMラジオ局は、Coloff Mediaがアイオワ州で所有する11のラジオ局の一つで、地元の小規模経営者に対する迅速で効率的なマーケティング・ソリューションの提供やローカル・ビジネス・プロモーションへの貢献が評価されたようだ。なお、「Service to Listeners, Clients, & Communities!」をモットーに掲げるColoff Mediaは、過去5回の受賞歴があるという。

さらに、「NAB Show Express Solutions Marketplace」では、出展を予定者していた事業者のプロフィール、記者会見、イベント、新製品の紹介などを行って報いていた。日本からの出展予定者、新製品としては、EIZOの「ColorEdge Prominence CG3146 HDR Reference Monitor」、ソニーの「PVM 4K HDR Monitor」や「PXW-Z750 4K XDCAM Shoulder Camcorder」、パナソニックの「AK-HC3900 HD HDR Camera System」や「CX350 Handheld Camcorder」などが目についた。

Naoakira Kamiya  
衛星システム総研 代表  
メディア・ジャーナリスト



**SWE DISH**

緊急報道  
ハイビジョン映像伝送  
Ku-band/X-band

**CCTスーツケース 90cmφ型 2タイプ有り**  
**120cmφ型**

**衛星通信用超小型可搬アンテナ**  
Suitcase CCT Satellite Communications Terminal


5分で運用開始


IATA対応収納ケース  
その他にも1ケース収納型から3ケース分割型など各種ケースあり

**エーティコミュニケーションズ株式会社**  
http://www.bizeat.jp    TEL : 03-5772-9125

